

## 2026年度 SYLLABUS 【博士前期課程】

授業科目名：人事管理論特論 (2025年度入学生：組織行動論特論)		専修：経営専修
担当教員名：中川 宗人		科目区分：展開科目
授業科目概要： 本講義は、学部レベルの人事管理論の基礎理解を前提に、欧米の代表的なHRM研究の理論・学説・概念・制度・論点・現代的課題を、 <i>The Oxford Handbook of Human Resource Management</i> を用いて体系的に学びます。各回では、(1)章の要点把握、(2)理論・概念の位置づけ、(3)研究上の論点、(4)日本企業・日本社会(地域の雇用慣行や企業実務)への応用可能性を議論します。受講者には事前に英語テキストを可能な限り予習し、要約メモと論点(問い)を持参することを求めます。		
履修上の留意事項： 事前学修：毎回、指定章を読んだ上で1ページ程度の要約+討議用の問いを提出もしくは持参すること。 英語読解：逐語訳ではなく、(a)論点、(b)概念定義、(c)理論的立場、(d)含意、(e)限界、を抽出する読み方を徹底する。 討議中心：講義は教員の解説よりも、受講生の問い、比較・応用の議論を中心に進める。 教科書は配布物を用意するので購入は不要です。参考書等は授業内で提示します。		
教科書・参考書(参考文献)		
書名 : The Oxford Handbook of Human Resource Management 著者/編者: Peter Boxall, John Purcell, Patrick Wright, eds. 出版社 : Oxford University Press 出版年 : 2007	書名 : 人事管理 第2版 著者/編者: 江夏幾多郎・平野光俊 出版社 : 有斐閣 出版年 : 2025	
書名 : 新・マテリアル人事労務管理 著者/編者: 江夏幾多郎ほか編 出版社 : 有斐閣 出版年 : 2023	書名 : 著者/編者: 出版社 : 出版年 :	
書名 : 人事管理のリサーチ・プラクティス・ギャップ 著者/編者: 江夏幾多郎ほか編 出版社 : 有斐閣 出版年 : 2024	書名 : 著者/編者: 出版社 : 出版年 :	
ディプロマ・ポリシー (DP) との関係		
DP1	DP2	DP3
○		
到達目標： 1. HRM研究の主要領域を整理し説明できる。 2. 主要概念を用いて、論点を立てられる。 3. 欧米の議論をそのまま輸入せず、日本企業・地域社会の文脈に適用する際のズレ/前提/条件を言語化できる。 4. 期末レポートとして、HRMの特定論点について先行研究の要点整理と自分の問いを提示できる。		

<p>評価方法及び評価基準：  成績評価は、60点未満をF、60～69点をC、70～79点をB、80点以上をAとする4段階とし、C以上の評価に単位を与える。  平常点 30%：討議への貢献、他者の議論の発展への寄与で評価。  リーディング・メモ（毎回）30%：1ページ要約＋討議用の問い（要約の正確性・論点抽出・問いの明確さ）。  期末レポート 40%：  テーマ例：①日本企業のHRMの強み・弱みを、Handbookの枠組みで再記述する／②青森の産業（観光・医療福祉・公務・製造など）におけるHR課題を、理論的に説明する／③自分の修論テーマにHRM理論をどう接続するか、等。</p>	
<p>授業の方法：  ● 章の要点解説  ● 受講者の要約・問いの共有  ● 討議（全員）</p>	
第1回	<p>テーマ：ガイダンス  内容：講義の狙い・進め方・読み方の訓練  教科書／参考書：Chapter 1（導入として一部使用：事前に全部読めなくても可）</p>
第2回	<p>テーマ：HRMを分析的に捉える  内容：HRMをめぐる基本視角、領域の全体地図、主要概念の整理  教科書／参考書：Chapter 1</p>
第3回	<p>テーマ：HRMの発展  内容：人事管理→HRMの形成、制度・専門職・学術領域の発展、日米欧の違い  教科書／参考書：Chapter 2</p>
第4回	<p>テーマ：HRMの目的と戦略的緊張  内容：効率・柔軟性・公正・正統性などの緊張関係／日本企業の位置づけ  教科書／参考書：Chapter 3</p>
第5回	<p>テーマ：経済学とHRM  内容：人的資本、インセンティブ、労働市場、制度比較の含意  教科書／参考書：Chapter 4</p>
第6回	<p>テーマ：戦略論とHRM（SHRM）  内容：RBV、フィット、実装、競争戦略と人材／日本企業への含意  教科書／参考書：Chapter 5</p>
第7回	<p>テーマ：組織理論とHRM  内容：組織理論からHRMを読む  教科書／参考書：Chapter 6</p>
第8回	<p>テーマ：心理的契約と働く人の経験  内容：相互性・約束・信頼・コミットメント／日本の「暗黙の期待」の変容  教科書／参考書：Chapter 7</p>
第9回	<p>テーマ：労働過程論とHRM批判  内容：統制・抵抗・技能・リーン／やりがいと統制の境界の分析  教科書／参考書：Chapter 8</p>
第10回	<p>テーマ：社会への埋め込み  内容：制度派の視点、同型化、正統性、国別モデル  教科書／参考書：Chapter 9</p>
第11回	<p>テーマ：仕事設計とワーク・オーガニゼーション  内容：仕事設計の類型、健康・学習・成果  教科書／参考書：Chapter 10</p>
第12回	<p>テーマ：雇用サブシステムとHRアーキテクチャ  内容：コア／周辺、内製／外部化、知識フロー  教科書／参考書：Chapter 11</p>

第13回	テーマ：従業員発言 (Voice) と労使関係 内容：参加・発言制度、組合、直接／間接の声／日本の職場で声が出る条件 教科書／参考書： Chapter 12
第14回	テーマ：多様性・公正・機会均等 内容：多様性施策の目的と副作用／採用・定着・女性活躍・外国人雇用 教科書／参考書： Chapter 13
第15回	テーマ：HRMと成果＋統合 内容：これまでの概念を統合し、各自の関心テーマに接続してミニ発表・討議 教科書／参考書： Chapter 26 (必要に応じて27)